

Root Research

Japanese Society for Root Research

ISSN 0919-2182
Vol.32, No.3
September 2023

目 次

【巻 頭 言】

会員の皆様へ 65

【書籍紹介】

書評『まんがでわかる 土と肥料 根っこから見た土の世界』（村上敏文著，農文協）

福澤加里部 67

【情 報】

「根っこのふしぎな世界」

中野明正 68

菜根譚 野菜の根の話 21. はなとひみつ

中野明正 69

第 58 回根研究集会のお知らせ（58th Biannual Meeting of JSRR） 70

【報 告】

第 57 回根研究集会に参加して

金俊輔 73

【会 告】

2024-2025 年度根研究学会会長選挙の結果について 74

根の研究
根研究学会(JSRR)

会員の皆様へ



告 示

○2024-2025 年度の根研究学会会長選挙の結果【概要】

根研究学会会則の第 8 条, 第 10 条および第 11 条に基づき, 2024-2025 年度(2024 年 1 月 1 日ー2025 年 12 月 31 日)の期の根研究学会会長の選挙を行ないました. 立候補が 1 名であったため, 無投票で来期の会長は, 大橋瑞江会員に決定しました. 詳細と大橋会員の立候補届を本号に掲載していますので, ご参照ください.

事務局からのお知らせ

1. 2023 年・2024 年の根研究集会

・第58回根研究集会

秋・冬の研究集会は兵庫県姫路市の兵庫県立大学(新在家キャンパス)で2023年11月3日(金・祝)ー5日(日)に現地開催します(大橋瑞江実行委員長). 一般発表(口頭, ポスター)に加えて, フィンランドで長年, 根の研究を推進してこられたフィンランド自然資源研究所のLeena Finér教授による特別講演, エクスカーションで兵庫県緑化センター(朝来市)訪問や木の根で作られた木の根橋(丹波市)見学も予定しています. 新幹線のぞみも停まる姫路駅からバスで10分, 世界遺産姫路城から歩いて10分と絶好のロケーションにあります. 姫路城は2010年開催時には平成の大修理の最中でしたが, 今回は修理後の美しい姿を堪能することができます. 詳しくは根研HPおよび本号に掲載のお知らせをご覧ください. なお, プログラム等の詳細は未定ですが, 決定次第, 根研HPとメルマガで案内させていただきます. 皆さまお誘い合わせのうえ, 奮ってご参加ください.

・第59回根研究集会

2024年 春・夏の研究集会は2024年7月20日(土)ー21日(日)に福井県福井市の福井市地域交流プラザにて現地開催する予定です(塩野克宏実行委員長). 細胞壁構造研究の世界的権威であるドイツ・ボン大学のLukas Schreiber教授による特別講演も予定しています. 2024年3月には福井まで北陸新幹線が延伸します. 福井には世界三大恐竜博物館の1つ福井県立恐竜博物館や曹洞宗の大本山「永平寺」もあります. ご参加お待ちしております.

・第60回根研究集会

2024年 秋・冬の研究集会は11月下旬から12月頃に熊本県熊本市の東海大学農学部(熊本キャンパス)にて現地開催する予定です(阿部淳実行委員長).

・2025年度の集会 開催地については募集中です. 立候補ありましたら事務局長にお知らせください.

2. 「30 周年記念限定根研オリジナルグッズ」の販売について

第 58 回根研究集会の開催に合わせて「根研」ロゴが入った「30 周年記念限定根研グッズ」の現地販売を計画しています. デザインや価格などの詳細が決まったら, メルマガや HP で案内いたします! 限定の根研グッズ, 要チェックです.

3. 電子版会誌のダウンロードについて

2023 年度から根研究学会ホームページおよび J-Stage から電子版会誌をダウンロードするためのパスワードを変更しました. ご注意ください. なお, ユーザー名の変更はありません.

根研究学会電子版会誌の URL <http://www.jsrr.jp/rspnsv/download.html>

J-Stage の URL <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/rootres/-char/ja>

次ページに続く

4. 「根の研究」への投稿にテンプレートをご使用ください！

著者の執筆負担軽減と校正・編集作業の効率化のため、根の研究のテンプレートを整備しました。テンプレートの word ファイルは根研究会ホームページ「根の研究 投稿規定」(<http://www.jsrr.jp/rspnsv/rule.html>)からダウンロードできます。こちらにしたがって原稿を作成していただきますようお願いいたします。なお、テンプレート中の青字は投稿に関する規定や記載例です。投稿時には削除してください。

5. 「苺住」海外渡航支援の募集

- ・本支援は、根研究学会所属の若手会員（申請時の年齢が40歳以下）の国際的な活躍を支援するため、海外の学会等に参加して根に関する研究成果を公表したり調査に出向いたりするための渡航経費の一部を補助するものです。
 - ・今回は海外への旅費として年間1～2件（1件6～12万円を目安）を助成します。
 - ・受付は随時行い（1月～12月）、採択数に達した時点で終了とします。
- ※詳細は根研究学会ホームページ（<http://www.jsrr.jp/img/A9sWPV8p.pdf>）でご確認ください。

6. 学生会員の研究集会への参加費は無料です

学生会員の研究集会への参加費は無料です！学生会員は集会受付で学生証の提示をお願いいたします。この機会に是非、根研究学会にご加入いただけますよう、関係学生の皆さんにご周知いただけますようお願いいたします。なお、一般会員の研究集会への参加費は有料です。また、非会員の参加費は、一般・学生に関係なく、一般会員より1,000円程度高くなります。

7. 会費納入のお願い

2023年度の会費をまだお支払いいただいていない方は、下記の郵便振替口座に納入をお願いします。請求書等の伝票をご希望の方は、事務局までお知らせください。

年会費（2023年）： 電子版個人 3,000円、冊子版（＋電子版）個人 4,000円、冊子版団体 9,000円（年度は1月～12月です）

郵便振替口座 口座名義（加入者名）：根研究学会、 口座番号：00100-4-655313

[他の銀行から振り込みの場合：ゆうちょ銀行 ○一九店（ゼロイチキョウテン）「当座」0655313]

根研究学会所在地・連絡先： 〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 新共立ビル 2F

（株）共立内 根研究学会事務局 TEL：03-3551-9891／FAX：03-3553-2047

- ・メールアドレス 事務局：neken2023@jsrr.jp 『根の研究』編集委員長：editor2023@jsrr.jp
Plant Root 編集委員長：editor2023@plantroot.org
- ・Web サイト 根研究学会：<http://www.jsrr.jp/> 『根の研究』オンライン版：<http://root.jsrr.jp/>
Plant Root：<http://www.plantroot.org/>

書籍紹介

書評『まんがでわかる 土と肥料 根っこから見た土の世界』(村上敏文 著, 農文協)

福澤加里部

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター

根っこにとって土の状態いかんで成長できるかが決まる。土の状態を知っておくことは根研究者にとっても非常に重要である。それを楽しく学べる良書を紹介したい。発行が2018年であるから、数年が経過している。雑誌の連載をまとめたものとのことなので知っている方も多いかもかもしれないが、知らない方もおられることだろう。私もインターネットで見つけてすぐに購入し、愛読している。書籍タイトルからも分かるように、「まんがでわかる」がポイントの全く新しいスタイルの本である。根っこのルートさん、娘のルー子、おじのルー蔵という根っこ一家が登場し、根っこ目線で土と肥料の理解を深めていく。また、ルー子は恋する乙女、ルー蔵は人生経験豊富なちょい悪おやじという設定で、ちょっと大人のお話でクスッと笑えるネタが随所にちりばめられていて、まんがを読むように(実際に各ページの半分以上がまんがです)根っこ一家ワールド(著者の村上敏文先生のワールド?)に引き込まれていく。さらに解説も充実しているので、まんがと合わせて読むことで、理解はさらに深まる。化学が苦手という方でも手っ取り早く土壌と肥料、すなわち根っこを取り巻く環境について学び直すことができること間違いなし。以下に具体的な内容(シーン)をいくつか紹介したい。

(1)「根っこのパートナー、土って何者?」の回では、「土の中でとくに重要なのが、粘土鉱物と、動植物の遺体が分解・再合成してできる腐植よ。(中略)いつもぐちぐちとマイナス思考だけど、プラスの電気をもった養分を体にくっつける重要な働きをしているの」。(2)「団粒だと水はけも水持ちもいい」の回で登場するモデル団粒コーゾーさんは、3拍子揃ったいい男:「①大金持ち(土粒子表面に養分を保持できる)、②水もしたたるいい男(中小のすきまに水を保持できる)、③カラッとした性格(大きなすきまから水が抜けて空気が入る)」。ルー子はぞっこん。(3)「愛とリンは奪うもの?」の回では、「リン、その不溶化や吸収は私たち根っこにとってはかくも激しい愛と憎しみに満ちたも



『まんがでわかる 土と肥料 根っこから見た土の世界』(村上敏文著, 農文協)の表紙・裏表紙

のがたりなのです」とのナレーション風の説明が入り、「土の中に入るとすぐに怪しい店に行って、アルミニウムや鉄やカルシウムとくっついて楽しんでるみたいね。もう、くやしいたらありゃしない。(中略)根っこは有機酸でリンを溶かしたり、菌根菌にリンを運ぶのを助けてもらったりしているわ。」といった具合である。

文章だけでは面白さが伝わりにくいかもしれない。まんがと一緒に読むと思わず笑ってしまう(裏表紙の挿絵参照)。また、紙面の都合上、ごく一部の紹介にとどまったが、トピックは46あり、いずれも楽しく気軽に学べるので、ぜひ手に取っていただくことをお勧めしたい。

■書誌情報

書名: まんがでわかる 土と肥料

副題: 根っこから見た土の世界

著者: 村上敏文

判型・ページ数: A5判・112頁

発行: 一般社団法人農山漁村文化協会

ISBN: 978-4-540-15103-3

「根っこのふしぎな世界」

中野明正

千葉大学 大学院 園芸学研究院

根研究学会会員の皆様の多大なるご協力を得て、「根っこのふしぎな世界 第1巻 根っこってなんだろう?」が2023年8月31日に、文研出版から出版されました。小学生高学年を読者対象として、植物の根っこについて、その生態や役割、人々の生活との関わりなどについて解説しています。基本的には、根研究学会の皆様にご協力をいただきQ&A形式でわかりやすく解説するシリーズとなっています。第1巻でのテーマは「根っこってなんだろう?」で、根っこに興味を持ってもらえるような質問と、おどろくような写真がたくさん入っている構成になっています。自然に対する探究心を育む一冊として、児童書欄などでも紹介されています。今後おおよそ2カ月に1巻のペースで、全4巻が刊行される予定です。

監修者の前文を一部抜粋して、この本に込めた思いを学会員にも共有したいと思います。

『パソコンやスマートフォンが当たり前の時代、今や人工知能が人類の未来に大きく影響をあたえ、宇宙旅行の可能性すら見えてきました。めまぐるしく社会は発展します。いっぽうで、みなさんの足元には、まだまだ未知の世界が広がっているのです。季節ごとに色を変える木々や道路わきの草花、田んぼのイネや畑の野菜、果物など、土の上の植物たちのすがたは私たちの目に入り、私たちを楽しませますが、その下はどうなっているのでしょうか? たとえば学校の清掃活動で、校庭の草取りなどをすることもあるでしょう。「意外とぬけない! 草取りもたいへんな作業だなあ…」と思いながら、ひたいに汗したことでしょ。その時にまじまじと根を観察したり、根について考えたことはなかったでしょう。それは、作業はつらく、一見、根は色もはなやかでなく、美しさに欠けるように見えるからです。ここで立ち止まって考えてみてください。「根はいったい何をしているのだろうか?」と。

か?」と。

ここでひとつ質問です、「根はどこまでのびているのでしょうか?」。本書は、このような疑問に答える形で、根の不思議を伝えていくことを目的としています。

こんなとても身近な足元に広がる未知の世界をみんなで探検してみませんか。このシリーズは、根っこの研究をしている根研究学会の先生方が、土の中で広がっている根っこについて、みなさんの疑問に答えます。みんなに話したくなる、意外なふしぎを発見してください。』



菜根譚 野菜の根の話

中野明正

千葉大学 大学院 園芸学研究院

21. はなとひみつ

皆さんは星新一(1926-1997)という作家を御存知だろうか。SF作家、特に“ショートショート(超短編小説)の神様”の異名をとる。私も小学生のころは本を読むのが苦手だったが、あれぐらい短い文章であれば何とか読めて、しかも面白かった。私が科学に興味をもったのも、もしかしたら星新一の影響が大きかったのかもしれない。実際、星は東京大学農学部農芸化学科を卒業しており、家業である製薬会社とのしがらみもあったのだろうが(卒業論文は固形ペニシリンの培養についてであった)、彼が「農学」を修めた点でも多くの根研究学会の皆さんはシンパシーを感じるかもしれない。私が言うまでもなく、アイデアが湧き出るユニークな人物で逸話には事欠かない。最相葉月著の伝記『星新一 一〇〇一話をつくった人』は分厚い大作だが、面白く読めた。

さて、1000を超えるお話の中のひとつに「はなとひみつ」がある。実はこれが、根に関する話なのである。すぐに読めるので、是非読んでいただきたいのであるが、かいつまんでお話すると…。

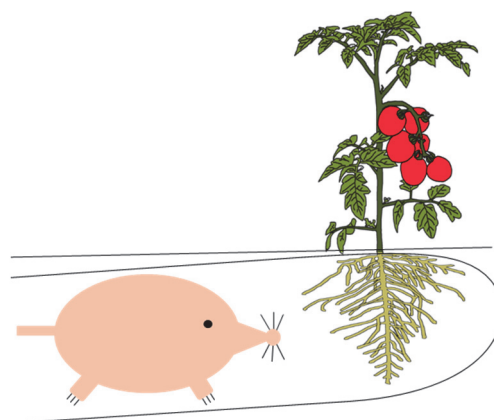
『花が好きなハナコちゃんが、世界中が花でいっぱいになることを願っていた。ある日、もぐらを飼いならして地面の下を動き回らせて植物の世話をさせることを思いつく。そのアイデアを絵に描いたところ、その紙が風に飛ばされて、“国立の秘密研究所”に舞い込むのであった。研究所長はそのメモを“本国からの

極秘ミッション”と思いこみ、研究所を挙げてモグラロボットを完成させる。植木鉢で実験を行うと、きれいな花が咲き、実験は大成功…と思いきや。』続きは、是非、超短編小説を読んでいただきたいが、某研究所を彷彿とさせ、さすが星新一の先見性を感じさせる小品である。

根についても様々な研究成果が出されているが、昨今の研究は、予算や組織に振り回されがちではないだろうか。国破れて山河あり、最終的に人知れず人を豊かにするのが、良い研究なのだろう。

参考文献

星新一作、和田誠絵、2009、はなとひみつ、おはなしえほんシリーズ、フレーベル館。



第 58 回根研究集会のお知らせ (58th Biannual Meeting of JSRR)

第 58 回根研究集会を 2023 年 11 月 3 日 (金) - 5 日 (日) に、兵庫県立大学環境人間学部 (新在家キャンパス) で開催します。同地での開催は 2010 年以来となります。一般発表 (口頭, ポスター) に加えて、フィンランドで長年、根の研究を推進してこられたフィンランド自然資源研究所の Leena Finér 教授による特別講演、エクスカーションで兵庫県緑化センター (朝来市) 訪問や木の根で作られた木の根橋 (丹波市) 見学も予定しています。

新幹線のぞみも停まる姫路駅からバスで 10 分、世界遺産姫路城から歩いて 10 分と絶好のロケーションにあります。姫路城は 2010 年開催時には平成の大修理の最中でしたが、今回は修理後の美しい姿を堪能することができます。

皆さまお誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。お待ちしております。

<開催日時 Date and time>

2023 年 11 月 3 日 (金) 12 : 00 - 17 : 30

4 日 (土) 9 : 00 - 15 : 00

5 日 (日) 9 : 00 - 16 : 00 (予定)

<開催場所 Venue>

〒670-0092 兵庫県姫路市新在家本町 1-1-12 兵庫県立大学環境人間学部 (新在家キャンパス)

行き方:

姫路駅まで: JR、山陽電鉄「姫路駅」下車

姫路駅から: 北口より神姫バス乗車、「県立大環境人間学部」下車 (姫路駅より約 10 分)

詳しくは大学 HP(<https://www.u-hyogo.ac.jp/shse/koho/map.html>)をご参照ください。

<参加費 Registration fee>

一般会員	General members	3,000 円	¥3,000
一般非会員	General non-members	5,000 円	¥5,000
学生会員	Student members	無料	Free
学生非会員	Student non-members	4,000 円	¥4,000

※お申し込み後に、参加費お支払い等について、ご案内いたします。

After registration, the payment of the registration fee will be informed.

※非会員の方で、会員として参加される場合には、参加申込み前に学会入会手続きを済ませてください。

<プログラム (予定) Tentative program>

【詳細は、後日、根研究学会 HP (<http://www.jsrr.jp>) に更新します】

Information will be updated in <<http://www.jsrr.jp>>.

11 月 3 日 (金)

午後

口頭発表 Oral presentation

特別講演 Special lecture

ポスター発表 Poster session

夜

懇親会 Reception

11月4日(土)

午前 ポスター発表 Poster session
 受賞講演 Award ceremony
午後 口頭発表 Oral presentation
 表彰式 Best Presentation Award

11月5日(日) エクスカーショ

<参加または発表の申込み Registration>

- 発表申込み締切日(タイトルの申請):2023年10月10日(火) Registration deadline for presenters (submission of the title): October 10, 2023 (Tue.)
- 参加申し込み締切日:2023年10月16日(月) Registration deadline for participants: October 16, 2023 (Mon.)
- 講演要旨提出の締切日:2023年10月20日(金) Deadline for abstract submission: October 20, 2023 (Fri.)

参加・研究発表のお申し込みは下記の「第58回根研究集会参加申込書」に必要事項を記入し、電子メール(ohashi@shse.u-hyogo.ac.jp)にてお送りください。メールの件名は58thJSRRとしてください。なお、プログラム編成の都合により発表形式がご希望にそえない場合もあることをご了承ください。

Please send below information by e-mail. Title '58thJSRR' would be good.

=====

第58回根研究集会参加申込書 (Registration Form for the 58th JSRR)

1. 氏名 (Name) :

2. 所属先および住所, e-mail アドレス (Affiliation and e-mail address) :

3. 発表の有無 (Only participation or Oral/Poster presentation) :

4. 発表「有」の場合

表 題 (Title) :

著者名 (Authors) :

発表形式 (Presentation format) : 口頭発表(Oral presentation) or ポスター発表 (Poster presentation)

根研究学会優秀発表賞へのエントリー

(Do you entry into The JSRR Excellent Presentation Award? Yes or No)

口頭発表を希望される場合

口頭発表の講演数には制限があるため、申込多数の場合はポスター発表への変更をお願いすることがありますが、変更は可能でしょうか (Since there is a limit to the number of oral presentations, we may ask to change to poster presentations if there are too many applications. Is it possible or acceptable?) :

可・不可 (いずれかを選んで下さい) (Yes or No)

5. 会員の確認 (Membership) :

一般会員 (General members), 学生会員 (Student members), 非会員 (Non-members)

=====

<要旨の書き方 Style of abstract>

*根研究学会ホームページの要旨様式をダウンロードしてご利用ください.

1. A4 版 1 頁以内. 上 3.5 cm 下 3.5 cm 左右 2.5 cm ずつの余白を取る.

One page of A4 size paper with margins (top: 3.5 cm, bottom: 3.5cm, right and left 2.5 cm for each).

2. 冒頭にタイトル・講演者名・所属・連絡先 (電子メールアドレス) を記載した後, 1 行あけて本文を書く.

Type the title, author(s), affiliation, email address and then abstract sentences.

3. タイトル : MSP ゴシックの太字・12 ポイント・センタリング (中央寄せ).

Use 12-point Bold Arial font with centering for the title.

4. 講演者名・所属・連絡先 : MSP 明朝・11 ポイント・センタリング. 連絡先は括弧に入れる.

Use 11-point Times New Roman font, centering for the name(s) of author(s), affiliation and corresponding email.

5. 本文 : MSP 明朝 (英数字半角は Times New Roman)・10 ポイント. 図表も含めて記載可能.

Insert a break line under the affiliation, and then type the abstract sentences with 10-point Times New Roman font.

<第 58 回根研究集会実行委員・問合せ先 Contact us.>

大橋瑞江

兵庫県立大学環境人間学部

〒670-0092 兵庫県姫路市新在家本町 1-1-12

E-mail ohashi@shse.u-hyogo.ac.jp Tel 079-292-9360

Mizue OHASHI

University of Hyogo, School of Human and Environmental Science

1-1-12, Shinzaike-honcho, Himeji-shi, Hyogo 670-0092, Japan

E-mail: ohashi@shse.u-hyogo.ac.jp Tel 079-292-9360

第 57 回根研究集会に参加して

金俊輔

秋田県立大学 大学院生物資源科学研究科

根の研究集会が 2023 年 5 月 20, 21 日に明治大学生田キャンパスで開催されました。20 日にはポスター発表 15 題、特別講演 2 題、受賞講演 3 題と懇親会が、21 日には口頭発表 12 題が行われました。私にとっては初めての学会参加であり、緊張を抱えながら始まった学術集会でしたが、今となっては非常に充実した経験だったと感じています。

一日目に行われたポスター発表では、スギやヒノキの森林分野や、ササゲやイネなどの作物分野、ホウレンソウの水耕栽培法などの園芸分野など、多岐にわたる根のお話を聞くことができました。発表者の方々と会話を交えながら気軽に質問することができ、様々な観点から深い知識を得ることができました。特別講演では、新屋良治先生による「線虫の住処としての根」と佐藤直人先生による「宇宙で農業をするために一低重力下における栽培培地中の水分挙動」の 2 題を聴くことができました。私の考えには全くなかった線虫の新しい防除方法や、私にとってあまり身近ではない宇宙農業についてなど、私の知見を広げ、視野を広げることができました。夜には懇親会が登戸駅前の「くいもの屋わん 登戸店」で行われ、40 名程度の方が参加されました。先生方や先輩方など様々な年齢の方々と多くのお話をさせていただき、他大学の研究室の雰囲気などを知ることができて非常に楽しい時間でした。

二日目に行われた口頭発表では、私も「根への異なる波長照射がコマツナの生育と栄養成分含有量に与える影響の解明」と題して発表を行いました。初めての学会参加であり、学会の雰囲気が分からないままの発表であったことから、不安や緊張を抱えながらの発表でした。しかし、発表前には、一日目夜に行われた懇親会でご挨拶できた先生方や先輩方が「楽しみにしてるよ」「がんばれ」など様々な声をかけてくださり、過

度な不安が無くなって適度な緊張感を持って発表に臨むことができました。発表後には多くの方から質問や助言をいただくことができ、とても嬉しく思いました。また分析方法や処理区の設定についての質問や助言は、自身の研究を新たな角度で見るきっかけとなりました。次の実験に向けてワクワクしています。その後の口頭発表では、パパイヤの耐寒性や根切片顕微画像に関する技術など、多岐に渡るお話を聴くことができました。1 題あたりたった 15 分程度の短い時間でしたが、非常に濃密な 15 分間であり、日ごろなかなか得ることのできない知識を身につけることができました。

私にとっては緊張も抱えながら始まった学術集会でしたが、様々な根のお話に触れ、いつの間にか楽しく面白く過ごすことができた二日間でした。

最後に、本会を運営してくださった塩津文隆先生をはじめとする明治大学の皆様、本会や交流会に参加してより一層盛り上げてくださった皆様には、この場を借りて心より御礼申し上げます。



口頭発表中の様子

2024-2025 年度根研究学会会長選挙の結果について

選挙管理委員長 (事務局長) 塩野克宏

根研究学会会則の第 8 条, 第 10 条および第 11 条に基づき, 前号において来期 (2024 年 1 月 1 日-2025 年 12 月 31 日) の根研究学会会長選挙の告示を行ない 2023 年 7 月 1 日-7 月 30 日に立候補を受け付けました。立候補届けは, 大橋瑞江会員 (兵庫県立大学・教授) からの 1 件のみでした。これにより, 来期の会長は, 大橋瑞江会員に決定しました。

会長選挙 立候補届

氏名: 大橋瑞江

連絡先: 〒670-0092 兵庫県姫路市新在家本町 1-1-12

兵庫県立大学環境人間学部

E-mail ohashi@shse.u-hyogo.ac.jp

【取り組み】

根研究学会は二つの活動目的を持っています。一つ目は「植物の根及び根に関連した学問に関心をもつ人々の情報交換の場の提供すること」、二つ目は「国内外の根の研究の発展に寄与すること」です。そこで私は、これらの活動目的を踏まえて下記の取り組みを行いたいと考えています。



1. コロナ規制の終了に伴う研究交流の推進

2019 年に発生した新型コロナウイルス感染症によって、人の社会活動は様々な規制を余儀なくされました。本学会の活動も例外ではなく、集会はオンラインで行われ、多くのイベントが延期や中止となりました。しかしようやくコロナによる規制が大幅に緩和され、対面集会が可能となりました。さらにコロナ規制中に発達したオンラインを活用した情報交換や情報発信は、今後、研究交流をさらに細やかに活発に行うための一手段として活用できると考えられます。そこで、今後は根研究学会における研究交流を、これまでよりも多角的に推進するための活動に取り組みたいです。具体的には、従来の活動に加えてオンラインセミナーの積極的な開催や、ホームページや SNS などのインターネット技術を活用した情報交換の充実を目指したいと思います。

2. 国内外や異分野との研究交流推進

根研究学会は、従来の学問の枠組みを超えて「根」というキーワードに関心を寄せる人々の集まりです。そこでは学問領域に問われない自由な発想が可能であり、新しい研究の発展が期待されます。しかしながら分野を超えた研究交流を推進するには、互いの学問領域への関心と理解を長い時間をかけて深めていく必要があります。そこで「根」というキーワードで結ばれた会員同士の交流を推進し、新しい学問の発展に寄与するための取り組みを行いたいと考えています。具体的には合同で行う体験学習や実験の企画など、新しい交流と議論の場を提供したいと思います。

【運営への抱負】

根研究学会の会長となった暁には、女性や若い方々に積極的に運営に関わっていただき、根研究学会の新しい一面を引き出したいと考えています。根研究会が抱える二つの大きな課題は、新しい会員の勧誘と費用節減対策だと思います。根研究学会は、他の学会では例を見ないほどの低費用で学会を維持しており、研究者以外の一般の方や学生らが気軽に参加できるように門戸を広げています。この部分は、これからもできるだけ維持したいと考えており、そのためにはまず、新しい学会員の勧誘やオリジナルグッズの販売などこれまでの運営陣の取り組みを踏襲したいと思います。さらに、より安定的な運営に持っていくために、これら二つの課題に対してより工夫を重ねた取り組みを探求したいと思います。そのためには、会員やスタッフとの会話を重ね、皆さんのアイデアやニーズをうまく取り込むと共に、学会を支えてくださったこれまでの運営陣と問題意識を共有させていただくことで、経験不足を補い、学会を発展に導きたいと考えています。

Root Research 根の研究

編集委員長	福澤加里部	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
副編集委員長	小川 敦史	秋田県立大学生物資源科学部
	松波 麻耶	岩手大学農学部
編集委員	岩崎 光徳	農研機構・果樹茶業研究部門
	宇賀 優作	農研機構・作物研究部門
	亀岡 笑	酪農学園大学循環農学類
	神山 拓也	宇都宮大学農学部
	檀浦 正子	京都大学大学院農学研究科
	辻 博之	農研機構・北海道農業研究センター
	仲田(狩野)麻奈	名古屋大学農学国際教育研究センター
	松村 篤	大阪公立大学
	南 基泰	中部大学応用生物学部
	山崎 篤	農研機構・東北農業研究センター
	山本 岳彦	農研機構・東北農業研究センター
上級編集補佐	島村 聡	農研機構・東北農業研究センター

事務局 〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 新共立ビル 2F
株式会社共立内 根研究学会事務局
Tel : 03-3551-9891
Fax : 03-3553-2047
e-mail : neken2023@jsrr.jp

根研究学会ホームページ <http://www.jsrr.jp/>

年会費 電子版個人 3,000 円, 冊子版 (+ 電子版) 個人 4,000 円, 冊子版団体 9,000 円

根の研究 第32巻 第3号	2023年9月15日印刷 2023年9月20日発行
発行人: 中野明正 〒277-0882 千葉県柏市柏の葉 6-2-1	
千葉大学 学術研究・イノベーション推進機構	
印刷所: 株式会社共立 〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 新共立ビル 2F	



Root Research

Japanese Society for Root Research